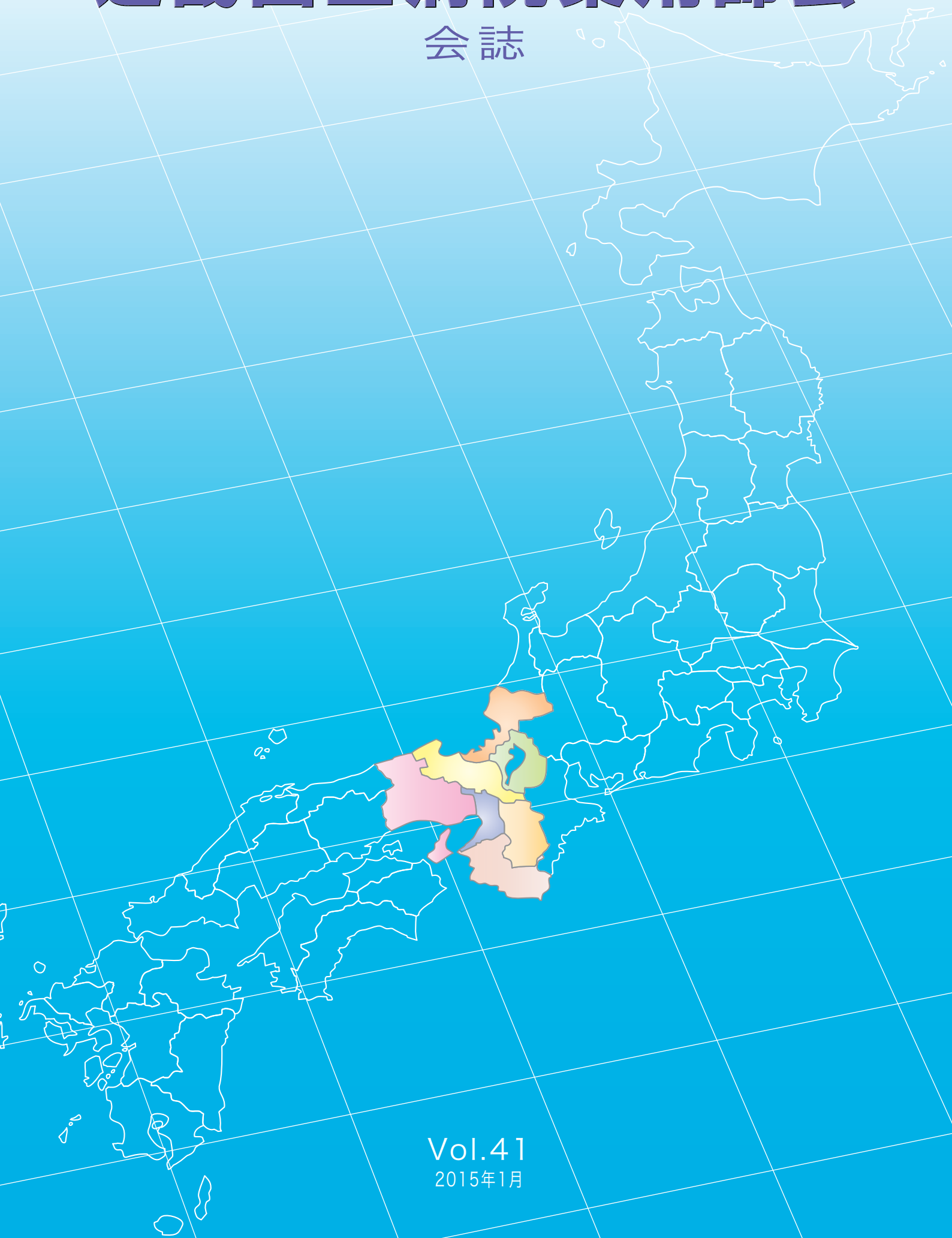


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.41
2015年1月

目 次

新年のご挨拶.....	3
近畿国立病院薬剤師会会長	山崎 邦夫
新年のご挨拶.....	4
国立病院機構 近畿グループ 薬事専門職	山内 一恭
薬剤科紹介.....	5
神戸医療センター	関本 裕美
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	8
兵庫中央病院	水谷 伸一
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会総会特別講演会報告.....	11
兵庫中央病院	水谷 伸一
「第 68 回 国立病院総合医学会」に参加して.....	12
神戸医療センター	澤田 浩之
「第 28 回 日本エイズ学会学術集会・総会」に参加して.....	13
姫路医療センター	保崎 有紀
治験業務に携わって.....	14
兵庫中央病院	竹原 健次
地区会報告.....	15
京都北部・福井地区	福井病院 田村 憲昭
京都南部・滋賀地区	宇多野病院 繁野 耕司
兵庫南部地区	姫路医療センター 山口 崇臣
大阪北部・兵庫東部地区	刀根山病院 寺川 伸江
大阪南部地区	近畿中央胸部疾患センター 古川 順章
奈良地区	やまと精神医療センター 黒田 友則
和歌山地区	和歌山病院 丸山 直岳
病院薬剤師になって.....	21
姫路医療センター	飯沼 公英

趣味のページ ～チームプレイとソロプレイ～.....	22
----------------------------	----

京都医療センター 藤末 慎

編集後記.....	23
-----------	----

新年のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長
大阪南医療センター 山崎 邦夫

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年より、新体制となり早一年が過ぎましたが、皆様には会の運営にご理解・ご協力いただきありがとうございました。

さて、平成 27 年度総会を開催した 1 月 17 日は、阪神淡路大震災が発生した日でした。早いもので、20 年が過ぎましたが、当時を振り返りますと、病院薬剤師の業務は、病棟業務が定着し、いかに服薬指導件数を増やしていくかという時代でした。診療点数も 1 回 450 点、月 2 回に増点された頃です。その頃の近畿の国立病院薬剤師数は非常勤併せて 180 名程度でした。それから今日までそれぞれの施設でチーム医療や医薬品の適正使用に向けた新たな業務に取り組み、病棟業務の拡充にも取り組んできました。結果、薬剤師数も大幅に増員され現在は 310 名を超えるまでになりました。このことは、日々業務に真摯に取り組んだ結果であり、我々薬剤師に対する期待が大きくなってきていることの証であると思っています。同時に、より責任も大きくなってきているといえます。その過程においては、近畿国立病院薬剤師会での各施設の取り組みについての情報交換、近畿国立病院薬剤部科長協議会での診療報酬に係る施設要件等の情報共有が、大きな原動力になったと考えています。

今後は、病棟薬剤業務への取り組みに対する評価をし、結果を数値化していく等エビデンスを出していくことが求められてきています。このような状況の中、薬剤師会では、昨年度は「病棟薬剤業務実施加算が新設され 2 年が経過して」をテーマにした講演会、「平成 26 年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性」についての講演会等業務に直結したテーマで講演会を企画いたしました。また、新たな事業として中堅薬剤師研修会、薬学生実務実習合同成果発表会も開催いたしました。

今年度は、昨年度からの継続の事業と合わせ、新たに卒後 OSCE を計画しています。病棟業務にかかる時間が増大し、薬剤科内での業務時間が激減している状況下、調剤・製剤等への意識が薄れてきているような感もあります。薬剤師の基本業務（セントラル業務）について見直し・スキルアップを図ることも忘れてはならないと考えています。

今年 4 月より、非公務員型の独立法人になります。体制がどのように変わっていくのか具体的な所はまだ見えませんが、会員一人一人の「やる気」が本会を活性化し、ひいては我々病院薬剤師の職能評価にもつながると思います。

今年度も会員皆様のご協力とご支援を賜り、「より活気ある」会にしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

国立病院機構 近畿グループ 薬事専門職
刀根山病院 山内 一恭

新年、明けましておめでとうございます。

昨年 4 月、前任の山崎薬事専門職（現会長）から薬事専門職を引き継ぎました。微力ではありますが、近畿国立病院薬剤部科長協議会・薬剤師会の先生方のお力添えも頂きながら、職務を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、昨年 4 月に改訂された、ブロック組織の改廃について報告させていただきます。

これまで本部直轄の組織として近畿ブロックがありましたが、現在は、大阪医療センターの中に近畿グループという名称で、業務を継承しています。担当理事・総括長のもと、医療担当・人事担当・運営担当の参事がおられ、医療担当に薬事専門職が配置されており、グループは若干縮小されていますが、薬事専門職の業務自体に、変わりはないと認識しています。

今年 4 月から 250 床・薬剤師 6 名以上の施設については、薬剤科から薬剤部と名称変更となり、さらに、がん専門薬剤師の手当支給が認められることになりました。これは、薬剤部科長協議会の過去からの提言が認められたものですが、他にも積み残し事案がありますので、協議会・専門職が一丸となって進めていきたいと考えています。また、4 月から国立病院機構職員は非公務員になります。全ての規定は、示されていませんが、病院薬剤師の業務自身は、変わりませんので、引き続き、薬剤部門業務の充実にご尽力頂ければと思います。

近年、年度途中の退職者等の増加、国家試験の合格率の低下により、薬剤師確保が困難な状況となっており、積極的に募集活動を行っておりますが、引き続き会員の皆様にもご協力頂きますよう、お願いいたします。

本薬剤師会も設立から 10 年が経過し、今後の薬剤師会運営も見据え、ワーキンググループの設置や、理事の若返りも進められています。人事異動につきましても、足並みを揃えるべきと考え、昨年度から実施している主任選考試験等により、年功序列にとらわれない優秀な薬剤師の登用を計画しています。もちろん、薬剤師個々のスキルアップ・経験の充実、さらに円滑な組織運営も考慮した上で、異動計画を立てていきますので、ご了承頂きますよう、お願いいたします。

近畿国立病院薬剤師会が 山崎会長中心にますます活性化されますよう、薬事専門職という立場で側面からも支えさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

薬剤科紹介



【病院概要】

神戸医療センターは、六甲山脈西部の丘陵地に開発された北須磨地区と神戸研究学園都市・西神ニュータウンのほぼ中央に位置しています。また、神戸総合運動公園、ほっともっとフィールド神戸、グリーンアリーナ神戸等に隣接し、周辺環境は緑に囲まれた閑静な住宅地です。大正7年に神戸市立屯田療養所として発足し、昭和22年に厚生省に移管され国立神戸療養所となりました。その後病院に転換し国立明石病院と統合され、平成16年に独立行政法人国立病院機構神戸医療センターとなり、敷地面積 54185 m²、延床面積 24621 m²、鉄筋コンクリート地上5階建ての現在の姿となっています。

当センターの基本理念である「すべての人の立場に立った医療サービスを提供します」に基づき、保有する資源および機能を活用し、地域との連携の下、常に最新の医療を提供しています。標榜診療科は23科で304床（一般病棟7病棟298床、ICU1病棟6床）あり、国が定める政策医療・4疾患5事業のうち がん疾患・循環器疾患・成育医療・骨運動器疾患について特に力を入れて診療体制を整えています。また救急医療に関しては、内科・外科の神戸市2次救急輪番制を担当すると共に、小児科専門救急輪番制・循環器科専門救急輪番制・脳外科専門救急輪番制を担当しています。教育に関しては医学部・薬学部・看護学部を初め他のコメディカルの学生の卒前研修・救急救命士研修などの積極的な受け入れを行っており、その数は年間2690名にのぼっています。

当センターは「患者様から信頼され・選ばれる病院、また近隣の医療施設からも信頼され・選ばれる病院」を目指し職員一同、弛まざる研鑽と努力を行っています。



【ロゴマーク】

患者さまを中心に最善の医療を提供し患者さまを支えるすべてのスタッフを楕円で表し、アルファベットの kobe の組み合わせにより全体を神戸の k で表しています。また、神戸は海と山が融合した地であり、海の青と山の緑で全体の色を表しています。



【薬剤科概要】

薬剤科は薬剤科長、副薬剤科長、調剤主任、薬務主任、治験主任、製剤主任、臨床業務主任（施設任命）、病棟主任（施設任命）、常勤薬剤師 7 名、薬剤助手 2 名の 17 名で構成されていますが、男性 3 名の女性比率の高い施設です。よって職場環境は清楚で？穏やかで？・・・とても仲の良いチームワークで業務を助け合っています。ランチタイムや業務終了後のティータイムを・・・想像してみてください（笑）。

さて、当センターは平成 25 年 5 月より 7 病棟全てに専任薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。また、麻酔科医からの強い要望により同年 8 月には手術室に薬剤師 1 名を配置しています。平成 25 年度は平均 464 件/月の薬剤管理指導を実施し、今年度からは外来化学療法室でのがん患者指導管理料 3 を算定しています。チーム医療は ICT、NST、褥瘡、緩和、糖尿病、外来化学療法等に交代要員を含めて 2 名ずつ配置しており、全ての薬剤科員が幅広い業務に携わっています。また、昨年 11 月に 10 年以上も使用していた薬剤科部門システムが総入れ替えとなった折に、外来指導支援システムを考案・導入し、改正薬剤師法 25 条の 2 に求められる外来患者への指導に取り組んでおり、手術入院患者を対象にした薬剤師外来の設置も予定しています。調剤においては、処方監査により疑義が生じた場合は医師への問い合わせと共に処方提案を行い、疑義照会後の処方入力を薬剤師が行っています。その他、病棟薬剤業務としても病棟定数保管薬の実施済み処方、褥瘡回診時の使用薬剤処方、特定薬剤治療管理料の算定できる医薬品の血中濃度測定オーダー等も医師と協働で行い、薬剤師による処方オーダーを実践しています。無菌調製は管理シ

システムにより調製データを記録して監査し、調製過誤防止に努めています。後発医薬品推進にも力を入れており、後発医薬品比率（数量割合）は昨年度末 77.9%です。クリティカルパス内の後発医薬品への切り替えに際してもクリティカルパス委員会の協力の下、薬剤師がパスの最終確認を行い、経済性の向上と医療安全に貢献しています。治験管理室では本年度受託研究費は請求ベースで 3000 万を目標にしておりますが、すでに達成済みとなっております。

これらの業務を通じて医薬品適正使用を推進し、当センターの基本方針である、人権を尊重し、良質・安全な医療サービスを提供するために日々努力しています。現在薬剤師 14 名・・・中堅病院ではありますが、大病院と同等の薬剤科業務内容と質を目指しています。そのため充実して楽しい毎日ですが、1 人 2 役は日常茶飯事・・・あちらこちらで悲鳴（？）のような声が・・・？それでも薬剤科員一丸となって頑張っています。

（文責：関本 裕美）

平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告

兵庫中央病院 水谷 伸一

平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会総会が平成 27 年 1 月 17 日(土)、KKR ホテル大阪にて開催された。

14 時 30 分、本田副会長の開会の辞により総会が開始となり、山崎会長からの挨拶、引き続いて山内薬事専門職より挨拶を頂いた。

議長には、やまと精神医療センター田中薬剤科長が選出され、26 年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

続いて 27 年度事業計画案、予算案について審議され全て承認された。その後、部会紹介が行われ、最後に本田副会長の閉会の辞により無事、総会が終了した。

日時：平成 27 年 1 月 17 日(土)

場所：KKR ホテル大阪

担当施設：兵庫中央病院

出席者数：出席者 148 名、委任者 137 名（会員数 316 名）

会則第 12 条に従い、会員過半数出席により総会が成立

司会：本田副会長（奈良医療センター）

開会の辞：本田副会長（奈良医療センター）

議長：田中薬剤科長

（やまと精神医療センター）

閉会の辞：本田副会長（奈良医療センター）



報告および審議事項

I. 報告事項

(1) 平成 26 年度事業報告

①総務

平成 26 年度年間活動報告について覚野総務担当理事（大阪南医療センター）より報告があった。

②広報

会誌の発行、ホームページの運用とメンテナンス、会員名簿と委員会メーリングリストのメンテナンス、ホームページアクセスレポート結果、アンケート調査、ビデオレターの収集、広報委員会会議について本田広報担当委員（大阪南医療センター）より報告があった。

③委員会報告

総会に先立ち開催された合同会議にて報告されたため省略された。

④地区会報告 各地区理事より活動報告があった。

- | | |
|---------------|----------------------|
| ・ 京都北部・福井地区 | 田村地区理事（福井病院） |
| ・ 京都南部・滋賀地区 | 繁野地区理事（宇多野病院） |
| ・ 兵庫南部地区 | 山口地区理事（姫路医療センター） |
| ・ 大阪北部・兵庫東部地区 | 寺川地区理事（刀根山病院） |
| ・ 大阪南部地区 | 古川地区理事（近畿中央胸部疾患センター） |
| ・ 奈良地区 | 黒田地区理事（やまと精神医療センター） |
| ・ 和歌山地区 | 丸山地区理事（和歌山病院） |

⑤近畿国立病院薬剤部科長協議会

平成 26 年度事業について山崎会長（大阪南医療センター）より中間報告があった。

⑥今後の薬剤師会を考えるWG 報告

座長の河合副薬剤科長（京都医療センター）より薬剤師会の活性化、地区会の活性化、専門・認定薬剤師の育成など将来の展望について議論された結果についての報告があった。

（2）平成 26 年度会計報告

政道経理担当理事（和歌山病院）より平成 26 年度会計報告があった。

（3）平成 26 年度会計監査報告

砂金監査役（宇多野病院）より平成 26 年 12 月 16 日に平成 26 年度会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。



以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

Ⅱ．審議事項

（1）平成 27 年度事業計画

①総務

平成 27 年度事業年間計画について覚野総務担当理事（大阪南医療センター）より説明があった。

②広報

会誌、ホームページ、名簿・ML、広報委員会会議について、新規事業でホームページリニューアル、アンケートシステムの運用、情報発信について本田広報担当委員（大阪南医療センター）より説明があった。

③各委員会

平成 27 年度の事業年間計画について、教育研修委員会は関本委員長（神戸医療センター）より、業務検討委員会は上野委員長（大阪医療センター）よりそれぞれ説明

があった。

④その他

平成 27 年度「委員会のあり方を考える会議」、「薬剤師会の集い」に関して、背景、目的、プロジェクトメンバー、期間、会議回数、運営方法及び予算などについて、石塚副会長（南和歌山医療センター）から提案があった。

（２）平成 27 年度予算案

政道経理担当理事（和歌山病院）より平成 27 年度予算案について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

Ⅲ. その他

部会の各代表者より活動目的、運営方針の紹介があった。

平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会総会特別講演会報告

兵庫中央病院 水谷 伸一

演題：病院薬剤師の将来像について

日時：平成 27 年 1 月 17 日

講師：日本病院薬剤師会 専務理事 遠藤 一司先生

病院薬剤師の業務の見直しあるいは改革が叫ばれる中、医療の形態が病院完結型から地域完結型へ移行することにより薬薬連携を基本としたチーム医療の重要性が挙げられている。また、患者志向の立場から患者サイドに薬剤師の目線が向けられる事が問われて行く。時代の流れに伴い、人口の増減も必然的な過程であり、薬剤師の活動においてもその状況に沿って変化していく。

薬剤師業務も調剤業務から調剤の延長上である、病棟進出にむけた 100 点業務からスタートし、薬剤管理指導業務を経て、さらには診療報酬の上昇、薬剤師の病棟常駐化に伴う病棟業務実施加算などが加わり、業務の多様化が求められ始めた。結果として、病棟薬剤業務実施加算による処方提案などに関しては医師側や看護側からの職能評価は得られた。しかし、患者からの評価はとなると十分とは言えない状況である。患者の目線で物事を考えて、行動していくべきあり、患者から見た薬剤師の存在感を高めていく必要があると考える。



また、昨年の薬剤師法の改正は、新たに調剤上必要な情報の提供と適切な薬物療法実施に関わる指導が求められている。指導内容は服用薬剤が安全で適切な薬物療法であるかを患者に理解してもらい、副作用に対する対応の理解などが最優先となる。

今後の薬剤師は入院患者だけでなく外来患者へも視点を移し、癌薬物療法を例に挙げれば、外来患者の癌治療認定薬剤師資格取得に積極的な挑戦を希望する。資格取得後は薬剤師の専門性を生かした良質な癌薬物療法を実施する事である。最後に、病院薬剤師の将来像として求められる内容は、研究心のある薬剤師の養成、自己研鑽する薬剤師の養成であり、若いうちにしっかり教育することは、未来の薬剤師の育成に繋がり大変意義深い。

等々、薬剤師としての昨日、今日、そして明日を担うべき現状について興味深く聴講出来た。

「第 68 回 国立病院総合医学会」に参加して

神戸医療センター 澤田 浩之

平成 26 年 11 月 14 日（金）～15 日（土）に横浜市のパシフィコ横浜で第 68 回 国立病院総合医学会が開催されました。今回、私は、「手術室常駐薬剤師による医薬品の適正管理と麻酔科医及び看護師の業務負担軽減への取り組み」という演題で発表させていただきました。

当院では、平成 25 年 8 月より医薬品の適正管理と麻酔科医の業務負担軽減を目的に薬剤師の手術室常駐を開始しました。そこでの薬剤師の取り組みと評価について報告しました。

ポスター発表ということで、5 分という限られた時間の中でまとめることはすごく難しいことを感じました。文章のまとめかたや口頭での発表で分かり易く伝えるまとめ力がこれから必要になっていくことを感じました。

今回薬剤師だけでなく他職種の方の発表や意見を聞くことで知識や視野を広げることができ、また他施設での取り組みを知ることで日々の業務で生かしていける点の発見もあり、まだまだ未熟な自分にとって大変有意義な学会となりました。

また、発表が終わった後の横浜観光も楽しめました。来年は北海道での開催ということで、次回の学会参加を目標に、これから 1 年頑張っていきたいと思いました。

最後になりましたが、このような発表の機会をいただいたこと、ご指導・ご鞭撻いただいた先生方に深く御礼申し上げます。



「第 28 回 日本エイズ学会学術集会・総会」に参加して

姫路医療センター 保崎 有紀

平成 26 年 12 月 3 日～5 日に大阪国際会議場にて開催された、「第 28 回 日本エイズ学会学術集会・総会」に参加し、ポスター発表をする機会を得ましたのでご報告します。

私は、「当院における Dolutegravir の使用経験」という演題で発表しました。新しく発売された抗 HIV 薬ということもあり、当院での使用状況や副作用の発現状況についての質問が多くありました。同様の発表が他施設からも数例あり、当院の状況と比較したところ、当院では確認されなかった不眠など精神神経系の副作用が多く報告されていました。同じ薬剤でも施設により副作用の発現に違いがあることがわかりました。今後は、長期的な経過についての発表も検討したいと思います。

発表の中で特に私が興味深かったのは、骨密度に関する発表でした。HIV 感染症の治療は、抗 HIV 薬の進歩により HIV 陽性患者の生命予後が改善され、高齢患者も増えつつあり、様々な生活習慣病が問題となってきています。その中の 1 つに骨代謝性疾患があります。HIV 陽性患者の骨密度低下の原因としては HIV 感染そのものや、ステロイドの使用歴、抗 HIV 薬であるテノホビルやプロテアーゼ阻害薬の使用などが考えられています。特に、抗 HIV 薬によるものに関しては長期に使用されている患者も多いため定期的な骨密度測定の実施の必要性を感じました。

初日に開催された薬剤師講習会、懇親会では全国各地から 70 名を超える薬剤師が参加し、大変盛り上がりました。懇親会ではなかなかお話しする機会のない各地域の先生方とも情報交換ができ有意義な時間を過ごすことができました。

今回、学会での発表が全く初めてということもあり、準備段階からアドバイスをいただき、データ収集や、発表の方法・伝え方など学ぶことがたくさんありました。ご指導いただいた先生方にはこの場をお借りして、御礼を申し上げます。学会への参加を通じて得た知識を今後の業務に活かし、より患者さんにとって利益になるように努めていきたいと考えます。



治験業務に携わって

兵庫中央病院 竹原 健次

私は和歌山病院から兵庫中央病院に 2013 年 10 月 1 日に転勤してきて、当日に「今日から CRC を併任して下さい。」と言われて臨床研究に携わることとなりました。着任してから現在までと今後の目標を書かせて頂こうと思います。

着任当初、CRC に関して私が有している知識としては GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）で定められているルールを守らなければいけない事、治験をしている病院には IRB（治験審査委員会）がある事、CRO とは??? SMO とは??? その程度でした。

国家試験受験時の知識も薄れており、どのようなことをするのか想像ができておりませんでした。CRC 併任を仰せつかって正直な感想は、治験は GCP で細かいことが決まっており、色々と大変だろうなと思いました。

最初に言われて取り組んだ事は GCP の内容と当院の SOP（標準業務手順書）を理解する事でした。まずは ICRweb で治験についてのルール・流れ等を勉強しました。現在も GCP については問題にぶつかるたびに、にらめっこしています。勉強は苦手なので大変です。今も科長をはじめ、副薬剤科長、治験小委員会の皆様、その他沢山の方々に助言を頂いております。

また、当院の治験管理室は治験以外にも臨床研究全般にも関わっております。例えば、NHO の研究事業として推進している EBM 推進のための大規模臨床研究、市販後調査（当院では主に特定使用成績調査）等があります。特に EBM 研究に関しては CRC が介入することで、研究費が増加する試験もあり積極的に介入しています。

ここで治験を含めた臨床研究について当院の実績と現状について紹介させていただきます。実績としましては H23 年度に企業主導治験後期第 2 相試験が 1 課題、H25 年度医師主導治験が 1 課題でした。現在進行中の治験につきましては、企業主導治験第 3 相試験が 4 課題実施中。EBM 研究は 1 課題実施中、特定使用成績調査に関しては 6 件実施中です。

CRC は私の他に看護師 2 人が在籍しており、3 人で業務を分担しております。

1 つの課題につき、メイン 1 人サブ 2 人で担当しており、現在はすべての課題について全員がある程度理解しております。今後人員や環境が整備される事で、更に多くの受託研究を実施していけるように頑張りたいと思います。

今後の目標としては受託研究実施に関わる書類・流れを記載したものを HP へ掲載する事、また、さらに多くの治験も含めた臨床研究を受託し、当院の臨床研究の活性化に貢献できる様に頑張りたいと思います。

地区会報告～京都北部・福井地区～

福井病院 田村 憲昭

日時：平成 26 年 10 月 17 日（金）19：30～21：00

場所：国立病院機構舞鶴医療センター 2F 会議室

参加人数：舞鶴医療（11 名）福井（6 名）あわら（0 名） 計 17 名（会員 25 名）

1. 地区理事・副地区理事の交代について

地区理事に福井病院 田村、副地区理事に舞鶴医療センター 長谷川が選出され地区会で承認を得た。

2. 各施設の現状報告について

舞鶴医療：病棟薬剤業務 9 月に申請し、病棟薬剤業務実施加算算定開始。

・今秋、がん薬物療法認定薬剤師取得のため 1 名研修中

福井：・自動車運転に注意すべき薬剤の薬剤指導の対応→注意リストを作成し、医師の許可を得て実施へ。

・医療安全相互チェックについて→福井病院・あわら病院・紫香楽病院と合同で実施。

・OP 時・内視鏡実施時抗血小板・抗凝固薬中止薬剤のリストの作成

あわら：・後発品への積極的な切替え

・病棟薬剤業務加算施設基準取得に向けての取組み

3. 理事会への要望事項

① 前回、以前の「青年薬剤師会の集い」みたいなイベントを計画してみてもとの意見があり、今後の薬剤師会を考える WG で検討すると回答があったがその後どうなっているか経過を確認及び、活動の内容も報告してほしい。

② 業務検討委員会の参加を呼びかけ

主任以上の参加との条件や委員会の集まりが遠方であることから参加が難しい。

したがって、新規の部会を立ち上げ、あるいは既存の部会への参加が望ましいのではと意見があり参加方法は地区理事に尋ねること。また、部会においても地域性を考慮しメーリングリストで参加していく。

③ 現在地区会は地区理事・副理事中心に運営を行っているが、地区理事の負担を軽くするため、世話人会のようなものを設立し、構成メンバー各施設 2 名ずつ（地区理事サブ、副理事サブ）を選出し、理事会へ若手の意見を抽出しやすくするといったことを取り組んでみてはどうかと意見があった。

4. その他

・平成 27 年 4 月より福井病院が敦賀医療センターに名称変更予定

5. フィジカルアセスメント学習 担当：舞鶴医療センター 黒川先生

以 上

地区会報告～京都南部・滋賀地区～

宇多野病院 繁野 耕司

日時：平成 26 年 11 月 21 日（金）19：30～22：00

場所：京都市

参加人数：京都医療（27 名）南京都（3 名）東近江総合医療（8 名）

紫香楽（4 名）宇多野（10 名）

計 52 名（会員 75 名）

1. 人事異動について

新会員の紹介等 4 名

2. 各施設の現状報告について

1) ①病棟薬剤業務の現状分析

②退院患者への薬剤師介入の強化

宇多野：鈴木 晴久

2) ①外来処方における薬剤交付時の取り組み

②抗MRSA薬のTDMにおける腎機能評価の見直し

紫香楽：内海 真和

3) ①外来院内処方患者への対応

②院内機能評価

③電子カルテ更新

京都医療：水津 智樹

4) 南京都病院の概要

南京都：上野 裕和

5) 当院における病棟薬剤業務実施加算の取り組みについて

東近江：松井 駿亮

3. 懇親会

以 上



地区会報告～兵庫県南部地区～

姫路医療センター 山口 崇臣

日時：平成 26 年 11 月 28 日（金）20：00～21：30

場所：姫路医療センター

参加人数：姫路医療（18 名） 神戸医療（10 名） 兵庫青野原（3 名）

計 31 名（会員 39 名）

1. 新規採用、人事異動に伴う新会員紹介
2. 会員報告
 - 1) 「手術室常駐薬剤師による医薬品の適正管理と麻酔科医の業務負担軽減への取り組み」
神戸医療センター 澤田浩之
 - 2) 「がん化学療法に伴う難治性吃逆に対してプレガバリンが有効であった一例」
姫路医療センター 松本 真理子
3. 施設見学

以 上

地区会報告～大阪北部・兵庫東部地区～

刀根山病院 寺川 伸江

日時：平成 26 年 11 月 26 日（木）19：30～21：30

場所：大阪市

参加人数：兵庫中央 6 名 循環器研究 22 名、刀根山 8 名 計 36 名

1. 新会員紹介
2. 理事会での決定事項について伝達
3. 親睦会

以 上

地区会報告～大阪南部地区～

近畿中央胸部疾患センター 古川 順章

日時：平成 26 年 11 月 28 日（金）19:00～22:00

場所：天王寺

参加人数：大阪医療（25 名）大阪南（19 名）近畿中央（7 名）

計 53 名（会員 83 名）

1. 新会員紹介

大阪医療センター 2 名

大阪南医療センター 2 名

2. 各施設の現状報告について

大阪医療：①薬剤師 36 名 育休 1 名 定員割れしている状況②外来化学療法室常駐へ③ 6 月から依然病棟薬剤業務において病棟間・曜日に薬剤業務実施時間にバラツキがあり、人員配置、業務内容に苦勞している。④定員割れより業務拡大はできない状態。

大阪南医療：①薬剤師 28 名、うち産休・育休中者が 3 名②薬剤管理指導件数は約 1000 件/月、退院時指導件数は約 150 件/月、病棟薬剤業務実施加算 3 年目となる③ 外来化学療法加算 A・B とともに約 200 件/月、外来化学療法における服薬指導件数は約 100 件/月である。 状況としては 6 月と同様の内容で安定している。

近畿中央：①薬剤師 17 名で、薬剤管理指導件数は月に約 800 件、麻薬加算約 70 件、退院時指導件数約 30 件、病棟薬剤業務実施加算 1700 件である②さらなるチーム医療の推進に向けて、病棟薬剤師と PCT をはじめとする各チーム薬剤師との連携、外来化学療法におけるチーム医療の強化を行っている。

3. 意見交換会

4. その他

①大阪南部地区 副理事の交代について

以上

地区会報告～奈良地区～

やまと精神医療センター 黒田 友則

日時：平成 26 年 11 月 11 日（金）19：00～21：30

場所：奈良市

参加人数：奈良医療（7 名）やまと精神医療（3 名）実務実習生（3 名）
計 10 名（会員 10 名）

1. 各施設の現状報告について

奈良医療：今年度実務実習受入 8 名（Ⅰ～Ⅳ期：各 2 名）

実務実習合同発表会にⅠ・Ⅱ期より各期 2 名ずつ参加

やまと精神：今年度実務実習受入Ⅱ期：1 名

実務実習合同発表会にⅡ期より 1 名参加

2. その他

1) やまと精神受け入れ実習生の奈良医療における実習対応について

奈良医療センターでの 1 週間の実習期間をより充実したものとするを目的に意見交換を行った。導入講義を事前に学習してもらうことで、技能・態度面に重点を置いて 1 週間実習を行えるよう、次回受け入れ時までに担当者間で調整していくことで合意。

2) 地区会への実習生参加について

実習生との親睦も深めるために、今回より実習生にも地区会参加の声かけを行うことにした。3 名全員の参加があり、実習生からは「実習中になかなか聞けないことについて話せたので良かった。」などの感想があった。

3. 懇親会

以 上



地区会報告～和歌山地区～

和歌山病院 丸山 直岳

日時：平成 26 年 11 月 19 日（水）19：30 ～ 21：30

場所：和歌山県田辺市

参加人数：南和歌山医療（15 名）和歌山（5 名）計 20 名（会員 22 名）

1. 出席者自己紹介

2. 各施設の現状報告について

（南和歌山）

- ・平成 26 年 5 月より薬剤師の病棟常駐を開始し、9 月までに各階東西病棟に 1 名ずつ配置した。
- ・現在、6 病棟において注射薬一施用調剤を実施しており、今年中に残りの緩和ケア病棟、救命救急センターにおいても開始予定である。
- ・平成 27 年 6 月に電子カルテへ移行予定である。

（和歌山）

- ・平成 26 年 10 月 14 日よりオーダーリングから電子カルテへ移行した。
- ・学生実務実習 4 期 1 名受入予定である。
- ・平成 27 年 1 月 31 日に開催される医療マネジメント学会 和歌山支部学術集会において当番施設となっている。

3. 学会関連

- ・国立病院総合医学会（2014 年 11 月 14～15 日）

（南和歌山医療センター）

「薬務業務の見直し及び整備と効率的な管理について」（瀬戸口）

「高齢者への DPP-4 阻害薬の安全使用への取り組み」（別府）

「トルバプタンの適正使用への取り組み」（渡辺）

（和歌山病院）

「カルペリチド長期投与における有効性・安全性の検討」（加藤）

4. 懇親会

以 上

病院薬剤師になって

姫路医療センター 飯沼 公英

今春、姫路医療センターに配属され、もう 9 ヶ月経ちました。月日が流れるのがあっという間に駆け抜けていった感じです。私の出身の高校が、隣の高砂市にあり学生時代にはよく姫路に遊びに来ていました。そんな場所に薬剤師として戻ってくるなんてその頃は思いもよりませんでした。懐かしく思いながら 4 月を迎え、最初は調剤業務の流れについていくだけで必死でした。実務実習時の病院は小規模で、調剤内規もシンプルなものでした。それに比べると覚えることが多く、慣れるまでに時間が掛かりました。その上、調剤ミスの連続で先輩方にご迷惑をお掛けする日々でした。先輩方や助手の方に優しくしていただき、未熟な私を支えて頂きました。いつまでも頼ることが出来ないのも、一度教えて頂いたことは一回で習得できるように心がけています。7 月には当直業務が始まりました。一人で業務をこなさないといけないと思うと不安が強かったです。初回の当直は緊張しすぎて、寝られなかったことを今でも覚えています。それと同時に病棟業務も始まり、患者様だけでなく、他職種の方とコミュニケーションを取る機会が増えました。自分ではコミュニケーションを取るのには下手ではないと思っているのですが、いざ話してみると、患者様に思うようにお話しすることができず、また医師や看護師さんから薬のことを聞かれても分からないことだらけでご迷惑をお掛けしてばかりでした。しかし、いろんな事を聞いて頂いたおかげで自分も勉強になり、そして次に聞かれた時はすぐに答えられるようになろうと思いました。そうしたことが患者様や他職種との信頼関係に繋がっていくのだと感じました。

まだまだ薬剤師としては半人前で先輩方には追いついていませんが、先輩方のスキルをどんどん盗み、日々自己研鑽しながら早く一人前の薬剤師となり、誰からも信頼される薬剤師になりたいと考えています。



趣味のページ ～チームプレイとソロプレイ～

京都医療センター 藤末 慎



今回趣味のページを担当させていただきます京都医療センターの藤末慎です。私の趣味はフットサルと読書です。フットサルを挙げさせていただきましたが、球技は学校の授業でしか経験してこなかったのも、下手の横好きです(笑)。私自身小さい時からサッカーをしていたわけではなく、特に興味も無かった

ですが、昨年から友人に誘われたことをきっかけとして活動するようになりました。

大阪の上新庄にあるフットサルヨコタでよく活動しています。そこで性別を問わず 20 数人の様々な職種の人達と月 2 回 2 時間程度運動しています。集まった人達を 4 つのグループに分けて試合をしていて、チームメンバーは固定にせず色々な人と組めるようにして楽しく試合をしています。フットサル自体とても楽しいですが、営業等の色々な職種の人達がいるので、コミュニケーションを取る事も楽しさの一つです。違う職の話聞くだけでも本当に刺激になるし、面白いです！私が参加しているサークルは、大会に出て良い成績を残す、試合に絶対勝つといった事はなく、みんなでワイワイ楽しもうというスタンスでやっていますので、私のような初心者でも、本気でやっていた経験者の方でも十分に楽しめる活動をしています。興味のある先生がおられましたら、ご連絡を是非お待ちしております！一緒に運動不足を改善しましょう(笑)。



もう一つの趣味でもある読書は、月 2 冊程度、小説に限らず、様々なジャンルの本を読むようにしています。本を読む事で自分の体験、経験していないことを知る事が出来、更に



るので、とても楽しいです。私はよく通勤中の電車で本を読む事が多いですが、休日や夜の空いている時間にカフェや喫茶店でも読んでいます。大阪市内にはたくさんの店があり、私自身大阪市内に住んでいる事もあって、本を読む名目で様々な店を渡り歩いています。カフェ巡りも隠れた趣味の一つになりました。写真は最近読んで面白かった本を載せていただきました。

そろそろ私の趣味の話は終わりにして、次回のバトンは紫香楽病院の内科真和先生に渡したいと思います。私もとても楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

編集後記

- ♪ 新年あけましておめでとうございます。昨年も多くの先生方から原稿執筆にご協力頂き誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ♪ 今年は、未年（ひつじどし）です。羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされています。ほかに「未」という字は、枝が茂っている木の形で、まだ枝が伸びきっていない部分を描いたものだといわれています。羊がつく漢字には良い意味をもつものが多くあります。翔のように、皆さまにとって幸せで素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます。
- ♪ 2014 年の漢字は「税」でした。消費税が 17 年ぶりに 8%に引き上げられ、2015 年には 10%というところ、解散総選挙に救われたのかどうなのか。社会保障制度や少子高齢化など医療にも大きく影響してきますが、数年後にまた「税」と感じない様になって欲しいものです。
- ♪ 久しぶりに大きな地震に遭遇しました。りんご狩りを楽しみ長野県松本市で宿泊した夜です。偶然でも見知らぬ土地で遭遇すると環境が違うため普段とは違う恐怖を覚えます。幸い、近隣で大きな被害はありませんでした。水害、噴火、地震など自然の力は強大です。「備えあれば患いなし」と言われますが、気持ちだけでなく防災セットを準備しようと改めて感じた旅行になりました。
- ♪ 今年最初の会誌です。今月号は新年の挨拶、近畿国立病院薬剤師会総会報告、学会報告、趣味のページなど、読み応えのある内容となっております。今月号も最後までご熟読ください。

(D.K)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌

第四十一号 平成 27 年 1 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科内)

発行人 会長 山崎 邦夫（大阪南医療）

編集 広報担当理事 宮部 貴識（大阪医療）

広報委員

本田 富得（大阪南医療）

川端 一功（大阪医療）

中西 彩子（奈良医療）

朴井 三矢（京都医療）

小西 大輔（大阪医療）

岩槻 瑠美（南和歌山医療）

奥田 直之（大阪医療）

田中 絵理（大阪南医療）